

# シラチャ市における日本人増加の背景と現地理解教育の実践

前泰日協会学校シラチャ校（シラチャ日本人学校）教諭  
宮城県名取市立増田西小学校 教諭 船 渡 剛 史

キーワード：現地理解、交流学習会、校外学習

## 1. はじめに

タイ王国は、東南アジアの中心に位置し、高い経済成長率を維持しながら、東南アジアにおける代表的な工業国としての立場を保ち続けている。そして、首都バンコクは東南アジア屈指の世界都市であり、世界各地から人が集まっている。また、ラオス、ミャンマー、カンボジアを含むインドシナ半島経済圏の中心地でもあり、1960年代の高度経済成長期には多くの日本企業が進出した。

1980年代から、タイの国家的な開発計画の1つとしてバンコクの南東80～200km圏に臨海開発が始まった。これは、タイ湾に天然ガス田が発見されたことや大型船の入港が不可能なバンコク港の代わりとなる港が必要になったためである。これによりバンコクの南130km、パタヤの北25kmにあるチョンブリ県シラチャ郡ラムチャバン地区に国際商業港を開発した。それに伴い、輸出志向の機械工業の拠点として工業団地の建設、開発を支える道路、鉄道、工業用水などのインフラの整備が始まった。このインフラ整備に日本は約1800億円の援助を行い、また、ラムチャバン港の建設に際しても139億円の円借款を実施し、開発を支援している。

1991年に開港したこの港は、1997年にバンコク港の貨物取扱量を抜いて国内最大の湾港となり、タイに立ち寄る国際的なコンテナ船航路のほとんどがこの港を使用している。敷地面積は約1,014haで東京ドーム200個分の広さがある。現在、この港のコンテナの取扱能力は10,800,000 TEU（1TEU＝長さ20フィートのコンテナ1つ分）あり、世界でも20位の取扱量となっている。

このようなラムチャバン港の発展に伴って、ホンダ、トヨタ、日産、三菱などの自動車メーカーをはじめ、そのサプライヤーなどの企業もたくさん進出してきた。ラムチャバン工業団地をはじめ、周辺にサハ工業団地、ピントン工業団地、アマタシティ工業団地などの建設に伴い、日本人駐在員も増えてきたことが、泰日協会学校シラチャ校の児童生徒数の増加にもつながっており、毎年約50人ずつ増加している。2015年現在では、全校児童生徒数が381名となり、今後も増え続けることが予想される。

## 2. 交流学習会

泰日協会学校シラチャ校では、毎年ブラバ大学附属小学校と交流学習会を行っている。この交流学習会が、現地理解教育の中心となっている。そのため、この会のために入念に計画をし、校長、ディレクター、学部長、担当教諭が何度か打ち合わせを行っている。児童が主体的に活動できる体制を作り、会を通しタイ国に対して好意や親しみを感じることができる交流会となっている。子どもたちが学んだタイ語で交流し、つながる喜びや伝える難しさを感じる経験は、とても大きなものとなっている。ブラバ校からは、タイの遊びや伝統的なタイダンスなどが紹介され、一緒に楽しむ。また、日本の文化としては、書道体験を行ったり、ぶんぶんごまを作ったりしながら一緒に活動する。毎年、みんな熱心に取り組み、言葉が伝わらない時はジェスチャーで教え合う姿が見られる。様々な活動を通して、交流を深めると共に、異文化理解も深めることができる会である。

〈交流学習会の様子〉

### (1) 開会式

緊張したムードの中行われた開会式。両校の校長から「たくさんの友達をつくりましょう。そして、いつまでも友情が続き、両校の絆をさらに深めましょう」とあいさつがあり、大きな拍手がわき上がった。その後の代表

児童のあいさつでは、シラチャ校の児童はタイ語で、ブラパ校の児童は日本語であいさつをし、会場全体が盛り上がった。

## (2) 文化交流

まずは自己紹介。事前にタイ語の授業で練習してきたタイ語での自己紹介をした。初めのシラチャ校主催の活動では、子ども達は2人1組となり、書道体験を行った。「筆」や「墨」「書く」といった単語を使い、ジェスチャーやお手本を見せたりしながら一緒に活動をしていく。うまく意思の疎通ができたときのうれしそうな表情が印象に残っている。次に、伝統的なお祭り「ロイクラトン」の時に



交流会の様子

に灯籠流しのように流す「クラトン」作りを教えてもらった。始めのうちは戸惑いの表情を見せていたが、目標の「受け身にならずに自分から」を達成するために、身振りや手振り、習ったタイ語を存分に使いながら交流をする姿に、たくましさを頼もしさを感じた。

## (3) 仲良し昼食

お弁当はみんなで一緒に食べた。交流活動の後だったので、表情も柔らかく和やかな雰囲気の中での昼食となった。さらに、もっと仲良くなろうと事前に用意した名刺交換をすると、場がさらに明るくなり、笑い声でつままれていた。日本のお弁当にタイの児童は興味津々であった。昼食後には閉会式。別れを惜しむように、握手をしたり、会場まで一緒に手をつなぎ向かったりする姿に胸が熱くなった。

## (4) 閉会式

閉会式のメインは、ブラパ校と日本人学校の児童全員による合同合唱。曲は、タイ語と日本語の歌詞が混ざった『思いやりの花』という曲。タイでもよく知られている曲である。お互いに手をつなぎながら日本語、タイ語の歌詞を体育館にいる児童全員が一生懸命に歌う姿に目頭が熱くなった。国籍を超え、心が通い合い、1つになった瞬間であった。

### 参考資料 [交流学习会の概要]

#### 【日程】

時 間	主な活動内容	時 間	主な活動内容
8:30	ブラパ校到着	9:40-10:10	学年交流 (シラチャ校提案)
8:30-8:45	ブラパ校入場の準備 (トイレ等)	10:15-10:45	学年交流 (ブラパ校提案)
8:45-8:50	ブラパ校入場	11:00-11:30	昼食
8:50-8:55	オープニングセレモニー シラチャ校「かけあい太鼓」	11:40-12:20	閉会式 「思いやりの花」(合同合唱) プレゼント渡し
8:55-9:10	開会式	12:20-12:30	ブラパ校見送り
9:20-9:40	タイ語で話そう	5校時	各学年・学級で交流会のまとめ

#### 【各学年の交流内容】

	シラチャ校提案 [9:40-10:10]	ブラパ校提案 [10:15-10:45]
1年	ぶんぶんごまで遊ぼう	タイダンス
2年	首飾り作り	ハンカチ落とし
3年	たろさん じろさん	種ひろい
4年	かぶと・紙トンボを作って遊ぼう	たこ作り
5年	書道体験をしよう	クラトン作り
6年	組体操を一緒にしよう	ボール取りゲーム

## (5) 成果

交流学習会を終え、事後の感想では全員が楽しかったと答えた。また、交流を終えてタイのことがもっと好きになり、もっと知りたいという気持ちが高まった。これは、準備段階から、交流学習会を大成功させようと意欲的に活動を行ってきたことと、交流活動では自分から積極的に交流することができたからだろうと考える。閉会式の後は、「もっと一緒にいたい」と別れを惜しむ姿が至るところで見られた。泣き出してしまう低学年児童もいた。言葉が通じなくても、何とかして気持ちを伝えようとする熱意があれば、身振りや手振り、表情などでも理解し合うことえることができることを改めて強く思った。

## 3. 校外学習

我が校では各学年が年に2回、生活科、社会科などの学習の一環で校外学習を行っている。日本では見ることでできない施設や文化の側面に触れることができ、子どもたちはとても楽しみにしている。しかし、「行って楽しかった」「見て面白かった」で終わるのではなく、そこから日本との違いや同じ部分などに目を向けさせ、一歩進んだ学びになるよう、事前・事後の指導にもさらに力を入れていく必要性があると考えます。また、開校6年目を過ぎたので、訪問施設や企業などについても、新しい情報を入れながら再考していく時期にきていると考える。



校外学習の様子

### 参考資料〔校外学習の概要〕

#### 各学年の内容

1年	カオキアオ動物園	ロイ島、スカパーブ公園	
2年	ノンヌット公園	ワットカオシーチャン（タイの電車に乗ろう）	
3年	タイロッセ アマタナコン工場	マックスバリュ見学	
4年	シラチャー消防署	シラチャー浄水場	
5年	ジャンタブリー臨海学校	田植え体験	三菱自動車工場
6年	チェンマイ修学旅行	マングローブ植林	

## 4. まとめ

タイのシラチャ日本人学校に赴任し、タイの自然や文化、歴史などについて多くのことを学ぶことができた。また、多くのタイの方との触れ合いを通して、タイの方の穏和で優しい性格を感じ取ることができた。

今後は、タイの良さを、できるだけ多くの方に紹介していくと共に、微笑みの国のタイから学んだ『笑顔』で世界中の人々に、日本のすばらしさを自信をもって紹介できるようにしていきたい。